

商工連プラザ

11
VOL.350

商工会は 行きます 聞きます 提案します



1 よみうりランドのジュエルミネーション:毎年開催されるジュエルミネーションは、幻想的な世界を描き出します。10月24日から2020年5月6日まで開催(休業日あり) 2 稲城市の鳥チョウゲンボウ:ハヤブサの仲間、自然が豊かな地域にしか生息できません。稲城市の生態系の豊かさを象徴する鳥で、上谷戸大橋の付近などで見られます 3 江戸の里神楽:市内最古の神社、穴澤天神社(あなざわてんじんじゃ)では毎年8月下旬に例大祭があり、江戸の里神楽(国指定重要無形民俗文化財)や獅子舞(市指定文化財)が奉納されます。神社下の湧水は東京の名湧水57選に選ばれています 4 稲城の梨:都内一の生産量を誇ります。果汁が豊かでみずみずしく、上品な甘さが特徴です

稲城市 inagi

CONTENTS

- 2 自由民主党の「令和2年度国家予算・税制改正等要望聴取会」で要望・人事交流
- 3 「創業塾」新しい取組みに手ごたえ 都商工連・地域振興課
関東ブロック青年部連絡協議会 千葉大会
- 4 廣瀬可世子都女連会長が「産業振興」で表彰 東京都功労者表彰
多摩観光推進協議会など「東京多摩観光フェア」を開催
あおしんビジネス支援マッチング大会
三越本店で「東京再発見プロジェクト」開催 都商工連、島の物産を販売
- 5 <連載>「わが社の経営革新計画」(サブスリー/昭島市)
- 6 <連載>「島おこし・多摩おこし」(松本工務店/稲城市)
<連載>「ぶらり訪問 商店街の繁盛店」(パティール/日野市)
- 7 多摩・島しょ地域のイベントガイド
多摩地域商工会エリアの景況(令和元年度 第2・四半期)
- 8 <連載>「さらに 多摩の女性社長」(相馬光学・浦 明子氏/日の出町)

発掘！ 商工会地域の観光資源

明治22年に近隣の6村が合併し「稲城村」が誕生しました。「稲城」の由来には「稲穂」と「稲城」の2つの候補から「稲城」が選ばれたという説と、鎌倉時代にこの地域を所領としていた武将「稲毛三郎重成」の名前にちなんだとする説とがあります。令和元年は、稲城村制施行130周年に当たります。

稲城市は里山が多く、都心に近いながらも多摩丘陵の豊かな緑と三沢川、大丸用水などの豊富な水に触れ合える、自然に恵まれたまちです。梨の産地としても有名で、江戸時代元禄期から栽培されていたとされます。市内には、矢野口、東長沼、押立を中心に梨畑があり、春になると白い花が咲きほこります。よみうりランドや日帰り温泉など、観光スポットも充実しています。

緑があふれる稲城市では、1年を通して、街中で草花を楽しむことができます。「美しい草花のまち」稲城に散策に訪れてみませんか。

東京都
商工会連合会

「消費税引き上げと軽減税率導入への支援の継続強化」
「小規模企業の実態を踏まえた働き方改革の実施」
「円滑な事業承継のための支援」などを要望

地域要望 台風15号で被災した島嶼地域事業者に対する支援強化／
横田飛行場の民間利用促進／JR南武線の羽田空港乗り入れなども求める

令和2年度 自由民主党の国家予算・税制改正等要望聴取会

東京都商工会連合会（都商工連）は10月1日、東京・永田町の自由民主党本部で開かれた同党東京都支部連合会の「令和2年度国家予算・税制改正等要望聴取会」に出席し、「制度改正」「小規模企業振興」「地域」の3分野14項目と、台風15号により被害を受けた島嶼地域の事業者に対する支援強化の計15項目を要望しました。

山下真一都商工連副会長は冒頭、

「島嶼地域では台風15号による被害が甚大であり、被災した事業者が事業の立て直しや復旧に安心して取り組めるよう、特段の配慮をお願いしたい」と述べるとともに「来年の東京2020大会までに、横田飛行場の民間利用を促進していただきたい」と要望しました。

「制度改正」の要望項目は、10月1日に始まった消費税引き上げと軽減税率の導入に対する支援の強化な

令和2年度

国家予算・制度等に対する
要望

■ 制度改正要望

- 一. 消費税の引き上げと軽減税率導入に対する支援の継続と強化について
- 二. 中小・小規模企業の実態を踏まえた「働き方改革」の実施について
- 三. 地域別最低賃金の決定方法の改善について
- 四. 中小・小規模企業の円滑な事業承継に向けた支援の強化について

■ 小規模企業振興要望

- 一. 小規模企業の持続的発展に実効性ある支援の拡充・強化について
- 二. 小規模事業者向け融資制度の一層の充実について
- 三. 官公需の更なる中小・小規模企業配分について
- 四. 中小・小規模企業の社会保険料の負担軽減について

■ 地域要望

- 一. 横田飛行場の民間利用促進について
- 二. 多摩地域から羽田空港への鉄道アクセスの強化について
- 三. 多摩地域都市基盤整備の早期実現について
- 四. 商店街の活性化について
- 五. 離島航空路線における現行便数の維持について
- 六. 小笠原空港の早期開設について
- 七. 令和元年台風15号により被害を受けた島嶼地域の事業者に対する支援の強化について



▲令和2年度国家予算・税制改正などで要望の基本方針を述べる山下副会長

ど4項目です。消費税引き上げ・軽減税率では、徹底した価格転嫁の実施と軽減税率対策補助金などの十分な支援の実施を求めました。また、小規模企業の実態を踏まえた働き方改革の実施や、地域経済の格差に合わせた地域別最低賃金の決定方法への改善、および中小・小規模企業の円滑な事業承継のための支援強化についても要望しました。

「小規模企業振興」の要望項目は4項目。小規模事業者持続化補助金など活用しやすい支援策の継続実施や、小規模企業に特段に配慮した制度の拡充を求めました。また、商工会等を中心とした支援体制の維持強化を図るため、小規模企業経営支援事業予算の安定確保を強く要望しま

した。

一方、「地域」の要望は追加要望を加え7項目です。横田飛行場の民間利用促進では、東京2020大会の期間中だけでも米国選手団の利用で横田飛行場を活用するなど、民間航空機の利用を実現するよう要望しました。また、多摩地域から羽田空港までのアクセスを強化するための南武線の羽田空港乗り入れや、小笠原空港の早期開設を求めました。

要望聴取会には、山下副会長と、込山雄茂副会長、奈良部義彦副会長、長谷川一也副会長、傳田純専務理事、清水晋事務局長らが出席し、要望を伝えました。山下副会長が基本方針を述べ、傳田専務理事が重点項目を中心に要望の詳細について説明しました。

人事交流

【退職】（8月31日）▽西東京・業務 藤崎

加奈子

（9月30日）▽都連・総務課・係

長・商指 西家徹

【異動】

（10月1日）都連・総務課・課長

補佐・商指（都連・多摩観光推

進協議会事務局・課長補佐・経

指）齊藤政幸

※地域名は商工会名。「都連」は東京都商工会連合会の略。「商指」は商工会指導員、「経指」は経営指導員、「業務」は業務支援員の略



▲三鷹市で行われた短期集中コースの「創業塾」

東京都商工会連合会（都商工連）地域振興課は、創業者の掘り起こしを目的に、創業のアイデア発掘から創業計画書の作成までを体系的に学べる「創業塾」を約20年にわたって開講しています。例年は11月、翌年1月に開講していましたが、2019年度は新しい取組みとして、8月の旧盆の時期3日間を使っての「平日短期集中コース」を三鷹市で、8

創業塾

新しい取組みに手ごたえ

平日短期集中コース
フォローアップセミナー

平日夜間コース

都商工連
地域振興課

月～9月にかけて全8日間で行う「平日夜間コース」を福生市で開講し、また平日夜間4日間の「創業フォローアップセミナー」を9月中旬に国分寺市で開講しました。3回の創業塾の参加者は三鷹が25人、福生が10人、国分寺が10人の合計45人でした。今年度の創業塾の中で、注目されたのはフォローアップセミナーです。主に、創業塾の卒業生や創業後にさまざまな課題に直面している方を対象に、経営計画と補助金申請書の作成を目標に、より実践的な内容を学ぶ場としました。講義内容は「資金繰りの達人になる」「エリアマーケティング手法を習得しよう」「経営計画の重要性を知る」「設備投資資金・運転資金の調達方法」「小規模事業者持続化補助金の申請準備」などです。参加費は無料としました。講師は、それぞれの分野でエキスパートとされる中小企業診断士の方々。経験に裏打ちされた分かりやすい講義で、満足感を得られた方が

多かったようです。

また、25人の参加があった三鷹市での創業塾は、何かと忙しい旧盆の時期3日間を使った夏季集中講座。1日7時間のハードなスケジュールで参加者不足も懸念された中、開けてみたら予想を上回る応募状況に。講師陣に対する評価も「力強く熱い

講義で、創業に対する意欲がかき立てられた」と上々でした。一方、福生市での開講は、社員が参加できる夜間のコースでしたが、JR中央線・西武線との接続の問題や、スタート時間が18時30分と早かったことなどの要因もあり、やや低調で、今後の課題となりました。

田中 真樹さんが熱演! 主張発表大会

(国分寺市商工会)

関東ブロック青年部連絡協議会 千葉大会

関東ブロック商工会青年部連絡協議会が主催する「令和元年度千葉大会」は9月11、12日の両日、関東ブロック11都県の商工会青年部員約1100人が参加して、千葉市のTKPガーデンシティ千葉で開かれました。東京都商工会青年部連合会（都青連）からは54人が参加しました。今大会のテーマは「“紡ぎ”～変わるもの・変わらないもの～」でした。

主張発表大会では11人の都県連代表が、A、B 2つのブロックに分かれて、それぞれのブロックの最優秀賞を目指して競いました。その結果、Aブロックは「青年部の繋がり×食育活動＝笑顔」のテーマで発表した静岡県・掛川みなみ商工会の橋山豪人さんが、B

ブロックは「野沢流の事業承継」をテーマで発表した長野県・野沢温泉商工会の河野今朝成さんが最優秀賞に選ばれました。最優秀賞の2人は、12月に名古屋市で開かれる全国大会に進みます。

東京都代表として出場した国分寺市商工会の田中真樹さんは「青年部の仲間と未来の地元地域を盛り上げる」のテーマで熱演しました。

同時に行われた講演会では「すしざんまい」を経営する喜代村の木村清社長が「人は何のために生きるのか～志を持って生きること～」の演題で講演しました。また交流会では200kgを超えるマグロの解体ショーがあり、寿司も振舞われ盛り上がりました。



▶交流会でのマグロ解体ショー



▶熱演する東京都代表の田中さん

新製品・新事業への挑戦で、さらなる飛躍を!

わが社の

経営革新計画 PART2 No.13

シニア・女性を正社員に
採用し、入社後に再教育して
最新IT技術者に



株式会社
サブスリー
(昭島市)

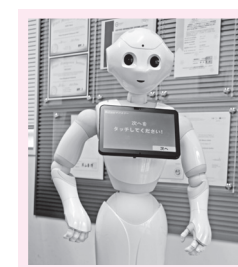
代表取締役
安保 満 氏

当社は1996年に設立されたソフトウェア開発会社。事業分野を絞り、その分野に集中することで高度な専門性に裏打ちされた良質なシステムを提供してきた。しかし、事業拡大に伴い、システム開発・運用管理などの主力事業のほかに、ITコンサルティング事業、ホームページ制作や電子商取引といったネットマーケティング事業など、多様な分野で専門的なスキルをもった人材が必要になってきた。さらに、先端IT技術であるAI、ビッグデータ、IoTにも対応できる人材が求められている。すでに当社では、情報処理大手や自動車メーカーといった企業からAI関連の仕事をいただくようになってきている。

しかし、ITエンジニアは大量に不足しているのが実情で、優秀な人材を確保するのは至難の業。採用コストも年々上昇している。このためIT関連業界では、自社のエンジニアが持つ知識を生かしつつ、最新のIT技術を身に付けてもらうため「リ・スキル」と呼ばれるエンジニアのスキルアップ教育に取り組む企業が出始めている。

当社においても、人材をどう確保するかは今後の事業の展開を左右するものと考え、様々な取り組みを行ってきた。その中で、試験的に定年退職後のIT技術者とクライアント(顧客)とのマッチングサービスを行ったところ、技術者とクライアント双方から「もっと専門的な業務にも利用したい」との声が多く出た。また、育児などの都合で退職した女性IT技術者の活用に取り組むことも必要ではないか、と考えた。

そこで、「定年退職したシニアと女性IT技術者を雇用、技術者再教育プログラムによって最新技術の知識をもったIT技術者に育成して、当社でIT開発に従事していただく、あるいは、当社専用のマッチングシステムによって派遣IT技術者として活躍していただく」というコンセプトの育成プログラムの開発・実施に取り組むこととした。この計画を「経営革新計画」として東京都に申請し、2015年10月に承認された。



▲ペッパーくんがお出迎え

本社: 〒196-0015
東京都昭島市昭和町1-7-10
TEL: 042-543-7554
URL: <http://www.subthree.co.jp/>

な技術や、それらへの対応の学習の2段階。講義やeラーニングについては、入門編(開発手順の習得)、基礎編(オブジェクト指向プログラミングの習得)、応用編(ライブラリー機能)に分け、基本的な内容の指導とeラーニングでのテスト実施により基礎知識の定着を図っていくことになる。また、内容は、顧客ニーズのトレンドに合わせ、最新のニーズを把握して更新していく仕組みにした。

当社の場合、基本的に正社員として雇用し、教育を行うことにしている。引退したシニアや女性人材を正社員として雇用・教育して活用する企業はまだ無い。また、女性については、家庭の事情に応じて自宅での作業や短時間での就労にも臨機応変に対応し、働きやすい環境で活躍できる可能性がある。

18年8月に計画が終了したが、当初計画の数人というレベルまでには到達しなかった。現在その要因を分析中だ。しかし、シニア技術者は、経験に基づいたバックグラウンドもあり思考も幅広い。シニア技術者の入社によって、若手とのコミュニケーションがスムーズになり、職場の雰囲気も良くなったと感じている。仕事に多少の遅れが出てきたりもなくなった。経験からくる余裕かも知れない。

ポジティブメンタルヘルスシンポジウム&相談会

東京都産業労働局

期日 11月20日(水) 13:00開場 場所 東京・大手町 日経ホール(参加無料・要事前予約) 対象 企業経営者・管理監督者・人事労務担当者等

シンポジウム 13:30~17:00

基調講演(13:30~14:30)

演題:「『ポジティブ』なメンタルヘルス対策で、人も組織も活性化」
講師:島津明人氏(慶應義塾大学総合政策学部 教授)

パネルディスカッション(14:55~17:00)

テーマ:「健康でいきいきと働ける職場づくり:ポジティブメンタルヘルス対策における睡眠の重要性」
パネリスト:島津明人氏、高橋正也氏(労働安全衛生総合研究所 過労死等防止調査研究センター センター長)、ポジティブメンタルヘルスに取り組む都内企業2社
モデレーター:中辻めぐみ氏(特定社会保険労務士・産業カウンセラー)

相談会

(※シンポジウムと併せてお申し込みください)

産業カウンセラーなどの専門家が、職場内のメンタルヘルス対策の具体的な進め方等についてご相談に応じます。

製造業・サービス業など77社、
連携支援機関21機関が出演

第19回 あおしんビジネス 支援マッチング大会

青梅信用金庫が主催し、東京都商工会連
合会など多摩地域の支援機関が協力する
「あおしんビジネス支援マッチング大会」が
10月16日、昭島市のホテルで開催され
ました。展示会には製造業、サービス業、小売・
卸売業など77社と、連携・支援機関21機関
が出演しました。

東京都商工会連合会（都商工連）は、経
営革新計画支援、多摩地域中小企業多様
な働き方支援ネットワーク事業、事業継続・
経営支援コーナーの各支援事業別で出展
しました。東久留米市商工会工業部会や瑞
穂町商工会工業部会（瑞穂ファントム工場）
も、会員企業の技術や製品をPRしました。



▶都商工連多摩島しょ経営支援
拠点の事業継続・経営支援コーナー



▲産業振興功労で表彰された
廣瀬可世子都女連会長

2019年度の東京都功労者表彰
式が10月1日都庁で行われ、廣瀬可
世子東京都商工会女性部連合会会長
が「産業振興」の功労者として表彰
されました。廣瀬会長は、2000
年から2012年まで国分寺市商工
会の女性部長を務め、2006年か
らは東京都商工会女性部連合会の会

廣瀬可世子 都女連が「産業振興」で表彰

東京都功労者表彰

長および東京都商工会連合会の理事
として地域産業の振興に尽力されて
います。

今年度、東京都功労者として表彰
されたのは、産業振興をはじめ、地
域活動、福祉・医療・衛生、スポー
ツ振興など、13の分野の個人285
人と21団体です。

小池百合子知事は式辞で「各分野
で顕著な功績を上げられた皆様方に
都民を代表して感謝いたします。長
年培った豊富な知識を次の世代にも
つなげていくために、これからも力
をお貸しください。さらなる活躍を
期待しております」と述べました。

日本橋・三越本店で島の物産を販売

東京都商工会連合会

東京都商工会連合会（都商工連）は9月25日～10月
1日の7日間、東京・日本橋の三越本店で開かれた「東
京再発見プロジェクト」に出展、大島・新島・三宅島・八
丈島・小笠原（父島）の特産品を販売しました。

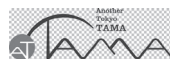
三越本店の食品売り場で開かれた催しで、大手デパ
ートの旗艦店で島しょ地域の特産品を販売するのは初
の試みです。地理的な条件もあって、単独では富裕層
を狙いにした販売実績を得るのが難しい島しょ事業者
のために、都商工連が富裕層へのテストマーケティング
を支援する「プレミアムマーケットチャレンジ事業」の
一環として行ったものです。

島しょ地域の特産品である、くさや、明日葉加工食
品、蜂蜜などを販売、青ムロアジのくさはほぼ完売、
明日葉カレーなども人気を集めていました。



▲三越本店で島しょ地域の特産品を販売

都商工連では、
客層や製品ごとの
売上高、曜日・時
間帯別売上高など
を分析し、デパート
の催事参加のため
のデータベース
を充実させていき
ます。



「東京多摩観光フェア」を新宿で開催

多摩観光推進協議会/西多摩地域広域行政圏協議会/JA東京中央会

東京都商工会連合会の多摩観光推進協議会、西多摩
地域広域行政圏協議会、東京都農業協同組合中央会
（JA東京中央会）は、9月17日～21日の5日間、新宿・JA
東京アグリパークで「東京多摩観光フェア」を開催しま
した。多摩地域の観光地の魅力を発信し誘客につなげる
ことを目的としたイベントです。

多摩観光推進協議会は「多摩の大型立体マップ」の展
示や、「多摩観光マップ」の配布、「北多摩TOKYOカード
ラリー」のPRを行いました。また、八丈島の産品を販売
するコーナーを設け、くさやなど海産物加工品、チーズ・
ヨーグルトなど乳製品、明日葉加工品などを販売。また、
小松菜、生落花生、梨、水ナスなど、多摩地域の農産物
や、多摩の産品でつくったスイーツなども販売しました。

入り口前に置かれた大型立体マップは目を引き、立ち
止まって手を触れる通行人も数多く見られました。



▲大型立体マップは親子連れにも人気

▲八丈島の産品も好調な売れ行き



人の気持ち、キズナは
お金では買えないモノ。
それは仕事にもつながる。
消防団も同じこと。

有限会社 松本工務店
代表取締役 松本 幸次郎 氏

多摩おこし 島おこし 稲城市

この人に聞く No.18

—稲城市で永年工務店を経営されています。地元密着の工務店として、どのように事業を展開されてきたのですか？

工務店は父の代から。父は元々酒屋だったのですが、働きながら学校に通い建築士や土地家屋調査士などの資格を取って工務店を始め、事業拡大に努めました。私も建築を目指し、大学院卒業後に設計事務所に入り6年間働き、様々な設計の仕事に携わりました。

家業を継ぐことになった昭和60年代は、稲城市にも住宅開発の波が押し寄せてきた時代で、大手デベロッパーやハウスメーカーも進出し、工務店を取り巻く環境が一変しました。

現在は、土地家屋調査士事業をやめ、お客様にとって身近な地元の工務店として、主に建築設計と施工を行っています。先代からのお客様なども多く、受けた仕事は1棟1棟着実にこなしていくことを旨としています。お客様の要望をよく聞き、それを職人に伝えていくことが役割と思っています。

—消防団の活動にも熱心に取り組まれていると伺っています。

祖父も父も消防団員でしたので、とくに深く考えることなく自然に団員となりました。稲城市は、東京都(島嶼地区を除く)でただ一つ、東京消防庁に業務委託せずに、自治体消防という形で消防本部・消防署と消防団で防火・防災を担っています。昭和57年に入団して今年で33年になります。平成20年に稲城市消防団の団長に、26年に東京都消防協会の副会長に任ぜられ、30年には東京都三

多摩消防団連絡協議会の会長に就き、現在に至っています。

お陰様で、26年3月に消防庁長官表彰(功労賞)を受け、28年4月には藍綬褒章を受章しました。会社を守ってくれた社員や仕事関係の皆さん、消防団の仲間のご協力でご受章できたと思っています。

—工務店経営と消防団の活動をどう両立させてこられたのでしょうか？

両立はしていないと思います(笑)。妻には「いつになったら消防を卒業できるの?」と言われ続けてきました。長く続けてこられた一番の理由は仕事関係者の理解と協力です。それと責任感と地元愛なんですよね。人の気持ち、キズナはお金では買えないモノ。それは仕事にもつながります。消防団も同じことだと思います。

—奥様のご理解がなければ、とても続かなかったのでは？

よく我慢してくれました。根っから明るい性格で何でも助けてもらいました。最近では、夜12時を過ぎるとメールが来ます「もうお昼過ぎだよ〜」って。

マンションの1、2階が事務所▶

〒206-0804
東京都稲城市百村134
TEL:042-377-7031



ぶらり訪問 商店街の繁盛店

京王線と多摩都市モノレールが交差する高幡不動駅から徒歩2分。「フラワーショップ バディー」はすぐに見つかった。緑あふれる涼し気な外観は、街の中でそこだけオアシスのように見える。店内に入ると、今を盛りと咲き誇る花の数とその香りに圧倒された。

キョロキョロしていると、人懐っこい顔の店主の田崎さんが、店の中ではなんだかからと、黒板があるスペースに誘う。店舗に併設しているフラワーデザインを教える教室だ。日本フラワーデザイナー協会(NFD)公認の教室で、資格取得を目指すコースと、月1回開く趣味を楽しむコースがある。NFD講師の資格と、国家資格の1級フラワー装飾技能士の資格をもつ田崎さんが教えている。企業などから依頼があれば出張教室にも年に数回出向しているそうだ。

パート店員を数人雇っているが、基本的には家族経営だ。店は田崎さんの父が25年前に開業した。田崎さんが店に入ったのが18年前。「大学在学中に草月流の造形クラスに通う機会があり、そこで花の魅力とそれを表現する楽しさに出会った。またNFDの研修で訪れた欧州で、花を愛でる文化に感動。花屋になることを決めた」。8年前には千歳烏山(世田谷区)に第2の店舗「ロブジェッド バディー」を出している。奥さんがお店に立っている。

店の繁忙期は、年末年始、3月~4月の卒業式・入学式・異動・昇進のシーズンや母の日など。ただ、年間を通じてコンスタントに需要があるわけではない。今は、通販型の花ギフト会社が注文を受

高幡不動商店会
有限会社 バディー

家庭の記念日に花を贈る習慣が
日本にも根付くように
田崎社長▶



け、加盟するフラワーショップで花束や花かごにアレンジし、宅配するという形も増加している。田崎さんは、その一つ「花キューピット」の多摩地域支部運営委員も務めるなど、売上の平準化ができるこの販売モデルの普及にも力を注いでいる。

バディーのモットーは「家庭に花を」だ。「花は人生の節目で名わき役として空間と時間を彩る。送った人の気持ちを形にかえて届ける花屋は素晴らしい仕事」と語る。家庭の記念日に花を贈る習慣が日本にも根付くようになれば…と願う。だからこそ、自身の技術研鑽にも手を抜かない。4月に大阪で開かれた花キューピット主催の全国大会「ジャパンカップ2019」にも東京代表として出場している。

田崎さんは、4月に日野市商工会の青年部長に就いた。様々なイベント活動で先頭に立つことになる。すでに11月の「日野市産業まつり」で行う青年部主催のダンスイベントの成功に向けて走り出している。

社長 田崎 紘典氏
〒191-0031
東京都日野市高幡1008-3
ステーションプラザ
高幡不動1F
TEL:042-591-4187



▲緑あふれるバディーの店先

12月・1月 多摩・島しょ地域のイベント EVENT GUIDE

日程	イベント名	会場	主催者・問合せ先
12月	11月29日(金)~1日(日) 清瀬市 第2回 きよせ街バル 清瀬駅周辺の飲食店おススメのメニューを食べ歩き、飲み歩いて楽しみましょう	清瀬駅周辺の飲食店	清瀬商工会(042-491-6648)
	7日(土) 大島町 第9回 伊豆大島マラソン フルマラソン、ハーフマラソン、10km、5kmの4コースです	元町港をスタート。フルマラソンは大島全域がコース	伊豆大島マラソン大会東京事務局(042-595-8632)
	14日(土) 三宅村 三宅島 GEO ノルディックウォーク 天然の火山博物館とも呼ばれるGEOアイランド三宅島を歩く絶景ウォーキング。当日はノルディックポールのレンタルもあります	三宅島内	三宅島観光協会(04994-5-1144)
22日(日) 国立市 大学通り商店会 クリスマスイベント 恒例のイルミネーションツリーやオブジェが7日~1月6日に点灯。22日は昼間にイベントを開催します(ミニコンサート・国立ポイント抽選会など)	国立駅前大学通りの歩道・緑地帯(JR中央線国立駅南口)	大学通り商店会事務局(国立市商業協同組合事務局内:042-572-1730)	
1月	9日(木) 昭島市 令和2年 昭島まちづくり 新年賀詞交歓会 行政、市民団体、事業者が一堂に会し、異業種間交流や地域交流など幅広い市民の交流の場とします	フォレスト・イン昭和館	昭島まちづくり新年賀詞交歓会実行委員会(042-543-8186)
	9日(木) 羽村市 羽村市商工会 令和2年新春経済講演会 テーマ:日本経済の展望 講師:岡田 晃 氏(大阪経済大学客員教授、経済評論家)	生涯学習センターゆとろぎ小ホール	羽村市商工会(042-555-6211)
	12日(日) 八丈町 第39回 八丈島パブリックロードレース ハーフマラソン、10km、3kmの3コースがあります	富士中学校(スタート・ゴール)	八丈島観光協会(04996-2-1377)
	19日(日) 新島村 駅伝・ロードレース大会 毎年恒例のランニング行事。老若男女問わず参加できます	新島村内	新島村教育係(04992-5-0203)
	25日(土)~26日(日) 八丈町 第30回 八丈町産業祭 漁業・農業・商工業者による特産品などの展示・即売会です	八丈町役場	八丈町産業祭実行委員会(役場内:04996-2-1125)
	26日(日)~3月22日(日) 大島町 第65回 伊豆大島椿祭り 江戸神輿・あんどでオープニングパレード。開催中は盛りだくさんのイベントが予定されています。	大島全島	大島観光協会(04992-2-2177)
	30日(木)~2月2日(日) あきる野市 第17回 あきる野・檜原すぐれもの物産展 あきる野・檜原地域のオリジナル商品・自慢の逸品などを一堂に集めた物産展です	あきる野とうきょう1Fセンターコート	あきる野商工会(042-559-4511)

念のため、主催者に日にち・会場などをご確認の上、お出掛け下さい。

中小企業 景況調査

多摩地域商工会エリアの景況

建設に消費増税前の駆け込み需要、製造・小売の売上高前期比DIIは大きく悪化

元年度 第2・四半期 7~9月

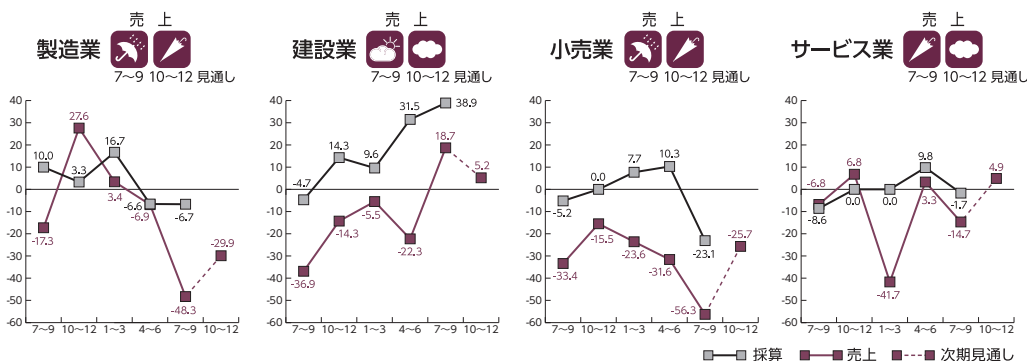
製造業 売上高前期比DIIが大きく悪化、採算期中DIIは微減、資金繰りDIIは回復。経営上の問題点の第1位は「原材料価格の上昇」など4項目から「従業員の確保難」に変わる。

建設業 売上高前期比DIIがプラスに転換。採算期中DIIは上昇し、拡大が続く。資金繰りDIIも回復。経営上の問題点の第1位は「材料価格の上昇」から「従業員の確保難」に変わる。

小売業 売上高前期比DII、採算期中DII、資金繰りDIIのすべてが大きく悪化。経営上の問題点の第1位は18期連続「大・中型店との競争激化」。

サービス業 売上高前期比DII、採算期中DII、資金繰りDIIのいずれも悪化。経営上の問題点の第1位は3期連続「利用者ニーズの変化」。

売上高(前期比DII)・採算(期中DII)の推移



調査企業の声

- * 輸出のストップで加工高が低迷している。非金属の製品が増え、試作も減っている。(航空機部品・補助装置製造業)
- * 消費増税前の駆け込み需要は実感されるが、材料費の上昇分を値上げできていない。(木製建具工業)
- * 競合店の影響で売上が伸び悩んでいる。10月から最低賃金が上がるので経営は厳しい。(パン小売業(製造小売))
- * 今年は梅雨が長引き、客定に影響したと思われる。(理容業)

注1. DII値(景気動向指数)のプラスは好転、マイナスは悪化とみる。
注2. DIIマーク ※:+30~ ☼:+10~+30 ☺:+10~-10 ▲:-10~-30 ▼:-30~
注3. サンプルは多摩地域150企業原数値採用。
注4. 採算は当期中の「好転」-「悪化」のDII値



すべてお客さんから
教わった

03 きらり 多摩の 女性社長

株式会社 相馬光学
代表取締役社長
浦 明子 氏
日の出町

相馬光学の浦明子社長は、高校・短大ともバレーボールの特待生で過した典型的な体育会系女子だった。卒業時に実業団チームに入ることが決まっていたそうだが、ケガで断念。あわてて就職活動をするもすでに手遅れ。やむなく父の信夫氏が経営する会社に1995年に入社。「何を作っている会社なのかも分からなかった」のが、父の「長期的後継社長育成プログラム？」に見事にハマって2013年に社長に就任。とくに営業の最前線の奮闘ぶりが目立つ。

相馬光学は、光学技術を使った分析・測定機器メーカー。日本電子を退職した父の信夫氏（現会長）が76年に起こした会社。物質を構成する成分を測定する高速液体クロマトグラフィー（HPLC）の心臓部分である分光器のOEM（相手先ブランド）供給から始まり、その後は装置本体を開発・製造する。分光技術を核とした新分野開拓にも意欲的だ。

信夫氏の後継社長育成プログラムの第一歩は、次女の明子さんを化学的な知識が得られる環境に置くこと。入社した明子さんが開発部で手持ちぶさたにしているのを見て、ある薬科大学でバレー部のコーチを探していると伝え、「ついでに研究員として大学に勤めることが必要」と言って送り込んだ。

薬科大学での生活は「途中から楽しくなった」という。「周りに男性がいることが新鮮だった。社長令嬢が来た!と物珍しそうに話しかけてくれた」。学生の実験を監督するのも仕事で、ごく自然に化学と向き合うことができた。ある日、実験機器の管理者から「浦さんの会社でHPLC装置を製造しているなら売ってもらえないか」と言われた。信夫会長に相談すると「1人で売ってみる」という返事。やる気に火が付き、3か月間必死に交渉し15台の受注にこぎつけた。「駆け引きが楽しかったし、いつの間にか技術用語も自分の口から飛び出していた」と振り返る。

3年間大学に通って会社に戻ったら「営業部」に配属された。これが後継社長育成プログラムの第2ステップ。「分からないことは全とお客さんから学んだ。ここ一番の勝負勘とスタミナには自信がある。押すべきか自重するべきかも分かってきた」。06年に営業部長になり、本人の意思とは裏腹に、業界内では「次期社長」と目されるようになった。

2000年代に入ると、主力のHPLCの市場は成熟期に入り、新分野への展開が必要になった。信夫氏は、時代を転換するキーとなる技術の一つがバイオテクノロジーだと感じていた。事実、ユーザーからの要望もその方向に変わってきていた。このころから準備してきた技術の中で、製品として結実したのが、食肉のうま味の指標となるオレイン酸を測定する「食肉資質測定装置」だ。01年に宮崎大との連携で開発をスタートし、08年には国の農商工連携事業に認定されている。

食肉資質測定装置では、うま味の判定の基準となるサンプルデータの蓄積が装置のパフォーマンスを左右する。このデータ収集に獅子奮迅の活躍をしたのが明子さんだった。日本中回った。ただ、和牛の業界は閉鎖的で、話のテーブルについてもらうのも大変なところ。しかし「お腹に子供がいるのに0℃の冷蔵庫に入って検査した」という熱意も伝わり、2000頭以上のデータを1年がかりで収集した。12年には和牛協会が主催する「全国和牛能力共進会」の公式な測定ツールとして採用された。開発から10年間の努力が実った。難しいとされる相手の懐に飛び込んで、いつの間にか説得してしまう明子さんを「特攻隊長」と業界仲間は畏敬の念を込めて呼んだ。

明子さんは11年に常務、そして13年に社長に就任した。「何となく父にはめられた感じ」と苦笑するが、もちろん納得ずく。信夫会長との役割分担は?と聞くと「常に方向は一緒だが、やり方が違う。会長は技術で私は営業。会長は損得で仕事を選ばずだが、私は少しでも利益が出るよう後につながる仕事を選ぶ」。

しかし、今のところ会長が元気じゃないと困るという。「人徳まではなかなか追いつけないが、承継すべきものは知識だけではない。振る舞いや対話術など、尊敬の念を抱かなくては習得できないことがまだまだたくさんある」。当分、二人三脚でいくようだ。



▲次の製品開発を急ぐ開発陣（技術部）

- 〒190-0182
東京都西多摩郡日の出町平井23-6
- TEL:042-597-3256
- URL:<http://www.somaopt.co.jp>